

NO	基本目標	担当所属	戦略(案)ページ	委員意見等	修正・対応方針等
1	1. 産業振興による雇用創出 (1)観光産業の振興 ①観光情報発信の強化と積極的な誘客プロモーション	観光課	P6	1. 産業振興による雇用創出 (1)観光産業の振興 ①観光情報発信強化と積極的な誘客プロモーション	「発信の強化」を「発信強化」へ修正する。
2	1. 産業振興による雇用創出 (1)観光産業の振興 ②受入態勢の整備	農林水産課	P6	②受入態勢の整備 ・景観及び環境整備事業【拡充】 ナラ枯れなどの森林病虫害対策・主要道路沿線の景観、森林整備	景観及び環境整備事業として、H20から水と緑の森づくり税事業(補助100%)を活用し、主要な道路沿線の松、ナラなどの枯損木の伐採を行い景観維持、安全面の確保を図ってきている。現状ではナラ及び松の枯損木が減少してきている。今後も継続的に事業を進めていく。
3	3. 少子化対策 ■20代～30代の未婚率 58.5%(H27 国勢調査) → 県平均を下回る。 ※H27 国勢調査の県平均は51.7%	企画政策課	P15	数値目標 未婚率 県平均より下回る : 指数が向上	国勢調査等の比較できる数値により、市の成果検証するもの。令和2年が国勢調査実施年度となるため、速報値等もふまえ、当該指標について検討していく。
4	3. 少子化対策 (3)学校教育の充実	学校教育課	P18	重要業績評価指標(KPI) 全国学力・学習状況調査 : ポイント向上に向けた対応	・新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進 ・全国学力・学習状況調査及び県学習状況調査等の結果分析による課題の明確化と実践 上記の取組を進めていく。
5	4. 地域社会の維持・活性化 ■男鹿市に住み続けたいと思う市民の割合 R1 調査実施 → プラス5.0 ポイント	企画政策課	P19	数値目標 市民調査実施の分析が必要では	市民意識調査集計業務結果(～R2.3.27)の分析、数値化等をふまえ、令和2年度に第2期戦略の当該項目について改訂等を検討していく。
6	4. 地域社会の維持・活性化 (3)安全なまちづくり ①防災・減災の推進	総務課危機管理室	P21	具体的事業 地域防災計画に登載している土砂災害警戒区域・地すべり・山地災害危険地区等の事業の推進	土砂災害による被害を防止するための取り組みは、県と連携し、工事等のハード対策と併せて、土砂災害警戒区域のハザードマップや看板設置等のソフト対策を実施し、防災意識の高揚を図っている。 《基本目標4》地域社会の維持・活性化の基本的方向の5項では、「地域住民への防災知識の普及と自主防災活動を推進し、自発的な防災活動の展開により災害対応力の向上を図ります」としている。事業を引き続き進めていく。
7	1. 産業振興による雇用創出 (1)観光産業の振興	男鹿まるごと売込課	P5	「滞在型観光」を推進するためには、一般的に言われているように感じているのは、食事が高くて美味しくない点が課題。リピーターとなるような価値の提供を各店舗に意識してもらう取組が必要に思われる。	満足度の高いサービス提供に向け、関係団体等と連携し、魅力ある観光産業に繋がる総合戦略となるよう検討していく。

NO	基本目標	担当所属	戦略(案)ページ	委員意見等	修正・対応方針等
8	1. 産業振興による雇用創出 (3)商工業の振興	男鹿まるごと 売込課	P5	空き店舗の利活用については、空き店舗の多い商店街自体の誘客に向けた仕掛けづくりがなければ効果は期待できないと思います。オガーレや男鹿駅隣接地で、雨天でも移動可能な範囲での集客の見込める施設誘致などができないものか感じます。	男鹿駅周辺整備事業が今後進んでいく中で、集客が見込まれる・事業者が収益を生み出せる施設の展開などについて検討していく。
9	1. 産業振興による雇用創出 (1)観光産業の振興 ②受入態勢の整備	観光課	P6	遊覧船による移動は時間がかかり、移動時間をどう楽しむかが課題。(シャトルバスも同様。)例えば、水陸両用バスを走らせ、高い座席の上から景観を楽しんでもらったり戸賀湾を横断させ、GAOや養殖場を見学するなどできないものか(素人考えではありますが)と感じています。	遊覧船のコースや移動時間、見学場所など移動中の船上での魅力充実が図れるよう、令和2年度も国の交付金を活用しながら実証実験を実施する。
10	1. 産業振興による雇用創出 (1)観光産業の振興 ③インバウンド誘客の促進	観光課	P6	インバウンド対策としては、SNSやYouTubeによる発信を数多く取り組むことが必要で、海外に向けた発信力の強化が求められると思います。	令和2年度より、観光ポータルサイトの拡充やYouTubeへのアップを見据えた動画コンテンツの充実を図っていく。
11	1. 産業振興による雇用創出 (1)観光産業の振興 ④男鹿版DMOによる「稼ぐ」観光の推進	観光課	P6	「稼ぐ」観光については、まさに新たな旅行商品が求められる。プラタモリで訪れた場所をHPや観光案内所でしっかりPRし、興味を持ってもらうとともに、誘客を案内する案内板を整備するなど秋田市内からどうやって男鹿まで観光客を呼び込むのかそしてまた、行ってみたいと感じさせるもの(景観、食事、人(名物))を育ててほしい。	観光ポータルサイトの拡充を図るとともに、プラタモリで紹介された場所も含めジオサイトや観光情報の案内板にQRコードのシールを張り付け、多言語サイト等への誘導を行っている。また、秋田市と連携して、秋田市観光マイタクシーのコースへ男鹿の観光地を盛り込むなど秋田市から男鹿市への誘客を行っている。また、入道崎の灯台や滝の頭湧水などを新たな観光コンテンツとして磨き上げていく。
12	1. 産業振興による雇用創出 (1)観光産業の振興 ③インバウンド誘客の促進	観光課	P7	外国人が宿泊させるためには、夜の時間を楽しめる場所が必要と思う。男鹿の温泉街にある足湯をキーポイントとしたバーなどの飲食できる施設を外国人の誘客と合わせて試験的に実施してみても考える。現状の3倍の目標達成に向けた受け入れ側の具体的な施策の検討が必要。	男鹿温泉の宿泊客へ向けて、雲昌寺のアジサイの夜間や早朝の観覧をミニツアーとして実施しており、これをインバウンド客へ向けたコンテンツとしても活用していく。また、足湯のある五風において定期公演を行っている「なまはげ太鼓」ライブの照明・音響設備増強によりライブのクオリティの充実を図ることで、インバウンド客へ向けた夜間の魅力向上につなげていく。

NO	基本目標	担当所属	戦略(案)ページ	委員意見等	修正・対応方針等
13	1. 産業振興による雇用創出 (3)商工業の振興 ②商店街活性化の推進	男鹿まるごと 売込課	P9	ダイヤ改正でJRで秋田駅到着が午前6時3分着となり始発の新幹線に間に合うことになった。駅利用者の増加に対応して駐車場の利用と合わせて朝食を提供するなどビジネスに繋がられないものかを感じる。	実際に男鹿駅から乗車し、始発こまちに乗り継ぐ乗客数や、需要、収益性等の課題はありますが、観光地の玄関口としての潜在的ニーズもあると考えられ、民間の事業者と意見交換等を図っていく。
14	1. 産業振興による雇用創出 (3)商工業の振興 ②商店街活性化の推進	男鹿まるごと 売込課	P11	目標値を引き上げていただき有難うございます。1年間で最低4件の目標のハードルは高いと思いますが、地域おこし協力隊員の呼び込みと終了後の起業の場の提供などで是非、連携をお願いします。	ご意見にあります地域おこし協力隊員の活躍による活性化の他、民間の事業者の方々とも連携しながらエリア全体が活性化していく取り組みを図っていく。
15	2. 移住・定住対策 (3)関係人口の拡大(ふるさと納税の推進)	男鹿まるごと 売込課/観光課/文化スポーツ課	P12	首都圏男鹿の会があるようですが、「男鹿人」の定義は、どこまでの人を対象としているのでしょうか。秋田県に転勤等もしくは商用で訪れた方々は、男鹿市にも立ち寄っている可能性が高いのではと感じます。関係人口を増やす取り組みとして、観光等で男鹿を知り興味を持った方が、男鹿に来なくても全国各地で開催される男鹿に関するイベント情報を手軽に入手できるようなツールを提供できないものかと思いません。例えば、専用のサイトをつくり、メールアドレスを登録してもらい抽選で男鹿の観光関連商品が当たるといった取り組みをしてみてもどうかと思う。	首都圏男鹿の会の他にも、秋田県人会等とも連携を図りつつ、首都圏でのイベントにおいてナマハゲにより男鹿をPRするなど、市の知名度アップに向けた取組をおこなっていく。
16	2. 移住・定住対策 (3)関係人口の拡大(ふるさと納税の推進)	観光課	P14	男鹿市ふるさと大使を創設(秋田市の取組みを参考に)し、観光や検定試験受験で来秋した人を活用してはどうか。	ナマハゲ伝道士合格者に向けて、観光情報やイベントのボランティア募集などの情報提供などをおこなっていく。
17	4. 地域社会の維持・活性化	企画政策課	P19	期待しますが、センスのいいものでなければ逆効果もしくは無意味なものになりかねないと思います。慎重にご検討ください。	「モニュメント等」については、内容効果等について十分に精査したうえで導入を検討していく。
18	4. 地域社会の維持・活性化 (1)歩いて暮らせるまちづくりと地域コミュニティの強化 ①男鹿版コンパクトシティの推進	企画政策課	P19	イメージが湧きません。	男鹿駅周辺整備事業を想定したもの。駅を中心とした市民の日常生活を創出し、人・モノ・情報が集積する賑わいと活気のある市街地を形成を進めていく。